

「ニーナ Z」の夏秋キュウリのつる下ろし栽培で 収穫枝を更新すると減収せずに誘引時間を短縮できる

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

1 部門名

野菜－キュウリ－整枝・剪定

2 担当者名

増戸めぐみ、北郷公大

3 要旨

「ニーナ Z」を用いた夏秋キュウリのつる下ろし栽培では、枝の伸長が早いため誘引作業に時間がかかることや、収穫節位の低下が問題となっている。そこで、収穫枝を更新する整枝法が作業時間や収量、生育に及ぼす影響を調査した。その結果、収穫位置が地上高 1m より下がった場合に収穫枝を更新する（図 1）ことで、更新しない場合と同等の収量を確保したまま収穫節位を上げ、誘引作業時間を短縮できることを明らかにした。

- (1) 収穫枝を更新することで、誘引作業時間を短縮することができ、更新しない場合と同等の可販果収量を確保することができる（表 1）。
- (2) 収穫枝更新により収穫位置は地上高 1m 以上を維持できる（データ省略）。
- (3) 5 月上旬定植、ロックウールマットを使用した隔離床養液栽培、地上高 2m の位置に成長点を誘引するつる下ろし栽培での結果である。
- (4) 夜温 15°C 以下では側枝が出にくくなるため、9 月下旬以降は、更新は行わない。

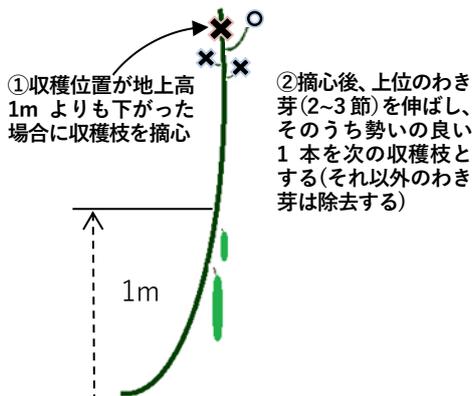


図 1 更新方法の模式図

表 1 収穫枝更新が誘引作業時間及び収量に及ぼす影響(2025年)

収穫枝更新	誘引作業 ^z (時間/10a)	総収穫果数	可販果数 (本/株)	うちA品果数	可販果率 (%)	可販果収量 ^y (t/10a)
有	466	299	228	170	76	25
無	527	293	202	140	74	22

^z 7/24～9/12の間に行った誘引作業時間の合計。作業員 2 名(キュウリ栽培経験 2～10 年目の 30～50 代女性)で行った誘引作業時間を合計し、算出。

^y 可販果収量は株間 50cm 1 果 100g、1,111 株/10a として算出。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 6～7 年度
- (2) 研究課題名 安全で効率的な新農薬・新資材の実用化(新農薬等に関する試験研究事業)

5 主な参考文献・資料

- (1) 福島県農業総合センター, 夏秋作型における施設キュウリの簡易な隔離床養液栽培マニュアル(第 1 版), 2024